慶光会だより 104号

KEIKOUKAI

令和４年12月吉日発行

今号の見どころ

●ふれあい祭り P1　●「更なる実践」の取組み P2　●就労支援の取組み、全職員研修開催 P3　●スポーツ推進応援団 P4

慶光会「ふれあい祭り」開催

「地域ふれあい祭り」は祭りを通して、地域の方に「法人の事業内容や取り組みを知っていただく」「障害者への理解を深める」「日頃お世話なっている地域の方へ感謝を伝える」ことを目的として始まり、地域の方の理解を深め、関わりが持てる良い機会となっていました。令和元年には第１０回を開催することができ、地域の方からは、「祭りで出し物をしたい。店を出店したい。」と言葉を頂くようになり、少しずつ地域で開催される祭りとして定着してきていました。また、デイセンターまにわでも「デイセンター祭り」を開催し、保護者や地域の方へ、知っていただく機会を作っていました。

しかし、昨年、一昨年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、２年連続での「地域ふれあい祭り」、「デイセンター祭り」の中止を決断せざるを得ませんでした。令和4年度の開催を検討していく中で、ワクチン接種が進んだことも背景にあり、感染防止対策を徹底しながらできることをできる形で開催したいと考えていましたが、感染状況が落ち着かない中で、地域の方をお招きしての開催は難しいと判断し、3年連続での中止を決断せざるを得ませんでした。

令和4年度は、何か楽しんでもらえることができないかと検討を進める中で、法人内のみでの祭りを開催することとしました。感染防止対策を万全に整えての開催にするため、日中活動範囲に絞り、3日間3グループに分かれて開催しました。久しぶりの祭りの雰囲気に大変喜んでいる方も多くおられ、笑顔もたくさん見られて、小規模ではありますが、開催できたことを嬉しく思いました。

また地域の方々と一緒の時間を過ごすことが出来たらと思っています。是非、開催の際は、多くの方に足を運んでもらえたら幸いです。

今後ともよろしくお願いいたします。

地域ふれあい祭り実行委員一同

社会福祉法人 慶光会
〒717-0602 岡山県真庭市蒜山上福田1201番地8　TEL (0867)66-4069

ホームページも見てね！
慶光会　検索

「更なる実践」の取組み

普通の暮らしをあきらめない　～蒜山慶光園のとりくみ～

コロナ禍において、私たちの暮らしも変化をしてきています。
自身が意識的に感染防止策をとることの難しい方たちが生活をする蒜山慶光園では、とりわけて、行動に制限がかかり、これまでできていたことができない日々が続いていました。

利用者の方たちの楽しみの一つに、週に1回地域のお店に買い物に出かける「定期バス」というのがあります。この「定期バス」も、コロナ禍の日々が続く中、職員が代行で買いに行くことがあたり前になってきていました。

蒜山慶光園の利用者の方たちは、言葉で気持ちを伝えることの難しい方が多く、職員の買い物代行も「いつも買っている、決まったもの」を買うということになっていました。

支援員会議では「このような状況をなんとかできないか」「本来の買い物の楽しみを実現する方法はないか」といった論議の中で、事業所に販売に来ていただく「出張販売」に取り組んでみてはどうかとの案が出ました。ありがたいことに「地域福祉に貢献できることでお役に立てれば。」とおっしゃっていただくお店があり、実現の運びとなりました。

気持ちが高まると声が出たり、飛び跳ねるなどの行動があるTさんは、これまでお店に入っての買い物を経験したことがありませんでした。

そんな彼が「出張販売」ではじめて買い物を体験しました。商品は、あらかじめお店の人へ利用者の方が好きな飲み物やお菓子、デザートなどを伝えて準備をしていただきました。そして、職員と一緒に買い物かごを持ち、並んだ商品を見て欲しいものを選ぶ、レジに行き自分でお金を払うという行為をAさん本人が行うことができました。付き添った職員からは「欲しいものを手当たり次第にとっていってしまうのではないかと思っていたけれど、すごくうれしそうな顔をして買い物をしていました。選ぶことができるんですね。」との感想も聞かれ、職員にとっても発見の多い出来事となりました。

高齢になり、車椅子で過ごすことが多くなってきているBさん。はじめに声をかけた時は「行かん、職員買ってきて。」との反応でしたが、車椅子で商品の陳列している部屋に入ると楽しそうに選んで買う姿が見られました。

出張販売は現在、定期的に来ていただいています。予定の日には、時間になると玄関前で座って心待ちにする利用者もいます。回を重ねるごとに「いつも決まったパン2個買うのに今日は違うものを選んだな」など、その日の気持ちで欲しいものを決めて買う様子も見られています。このような経験を重ねる中で、生活の幅を広げることができればと考えています。

就労支援の取組み

ワークプレイスまにわ（就労継続支援B型）

従たる事業所ワークプレイスつやまは、令和4年4月に開所し9カ月が経ちました。開所当初は、職員も利用者の方も作業に慣れていく事に大変苦労しましたが、今では作業にもずいぶんと慣れ品質も安定してきました。現在は、利用者の方も増えつつあるため、更に作業しやすい環境を整える事に注力し、日中の時間を充実してもらえるよう取り組んでいます。今後も楽しく通所して頂く為に、レクリエーションやイベントも開催したいと考えています。

作業を通して一人ひとりに寄り添いながら、多く笑顔を増やすために、就労支援に取り組んでいきたいと思います。

常時、見学や体験実習も実施していますので、ご気軽にご相談ください。

全職員研修を開催しました

接遇研修

おもてなしのプロであるANAビジネスソリューションの元CAの方を講師にお招きして、7月に2日間にわたる接遇研修を開催しました。

1日目は管理職を対象に組織におけるコミュニケーションの重要性についてご講義いただき、良い組織とは心が通じ合っている組織であり、相手を大切に思う気持ちを表現することでコミュニケーションがスムーズになるということを学びました。コミュニケーションの第一歩としてあいさつについて管理職全員で考え、慶光会あいさつ向上スローガン「変えていこう！笑顔に。みんなで愛さつ、みんなが笑顔」を決定しました。心を込めたあいさつで、みんなを笑顔にしようという思いを込めて、あいさつを「愛さつ」と表現しました。

2日目は全職員を対象に接遇マナー研修を開催し、身だしなみや立居振る舞い、言葉遣い等の基本を再認識する機会となりました。慶光会あいさつ向上スローガンについて、全職員へ周知し、取り組んでいくことを決めました。

研修終了後も「みんなで愛さつ、みんなが笑顔」が実践できているか定期的に振り返り、「愛さつ」の向上に取り組んでいます。

人権研修

11月、川崎医療福祉大学医療福祉学部医療福祉学科講師の田渕泰子先生に御講演を頂き、人権・虐待防止研修「歴史から学ぶ～精神障がい者の人権」を開催しました。

近年、五大疾患の中でも最も多い疾患が精神疾患であり、生涯を通じて5人に1人が発症しており、誰にでも起こり得るありふれた病気の中でも今回は、統合失調症について、名称にまつわるエトセトラから詳しくお話を頂きました。約20年前までは、精神分裂病と呼ばれ、人格が破壊してしまう否定的な響きがあり、差別や偏見を助長し、社会参加を阻んでいる⇒2002年に統合失調症へ病名変更となりました。又、精神保健福祉に関する法律の変化についても学び、その中で私宅監置、強制入院等人権についても学びました。

精神障がいへの偏見は世界的な課題の一つでもあり、その偏見をどう取り除いていくか、誰にでもなり得る疾患であり、周りの支援者の対応で当事者が変わっていくか等を考えさせられる事が多い研修でした。医療の必要性、本人のライフヒストリーを知る、服薬、「人薬」、特性を知るなど今後の支援のヒントとなる研修でした。

スポーツ推進応援団 活動報告

第22回全国障害者スポーツ大会　いちご一会とちぎ大会

法人より2名の選手が参加しました。両者とも代表選手として全力を出し切ることが出来ました。その結果、3種目にて金メダルを獲得することができ、応援団も誇らしく思います。今後も引き続き、全力で応援していきたいと思います。

応援して頂いた皆様ありがとうございました。

赤い羽根共同募金（分配金助成）

グループハウスかわかみでは、赤い羽根共同募金の助成金により、福祉車両を導入させていただきました。

当グループホームの利用者は、障害をお持ちの高齢の方が中心で、車いすの方も多くなってきています。今回、導入した車両では車イスのまま2台乗車でき、座席への乗降もとてもしやすいため、快適に送迎やドライブに出かけられ、ご利用者様の笑顔も増えました。

これからもたくさんの笑顔を乗せて、安心安全な運転に心掛けたいと思います。

募金をして頂いた皆様、本当にありがとうございました。

カーポート

蒜山慶光園玄関前と体育館前にカーポートを建設しています。蒜山は豪雪地であり、積雪が1mを超えます。特に冬季は、送迎時や外出時など乗降の際に苦労をしていました。カーポートはリフト付きハイエースで乗降するのに十分な大きさがあり、また建物のスロープに隣接しているため、車いすの方も、雨や雪に濡れることなく、安心安全に行き来できるようになります。今年度完成した連絡通路と合わせて、「利用者の移動時の安心と安全を確保する」ことについて一歩前進です。

ありがとうございます。

赤い羽根共同募金　様
カイロとエステのほのか　様
和食　旭　様